

イスラエルの自滅

剣によつて立つ者、

必ず剣によつて倒される

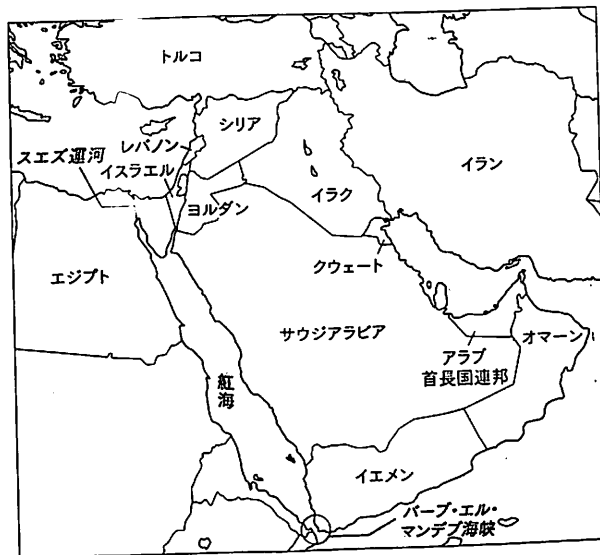


宮田律

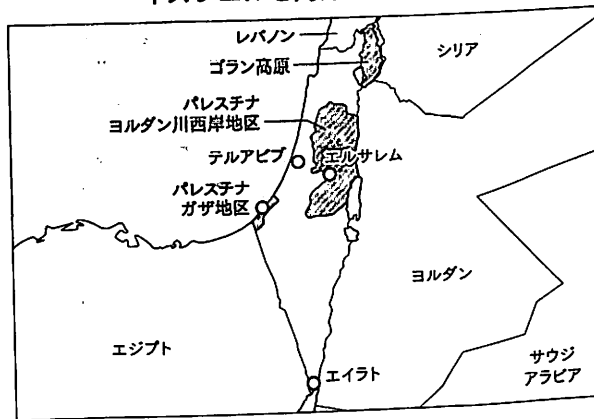
光文社新書

343

中東地域の地図



イスラエルと周辺地域の地図



はじめに——周囲を敵に囲まれたイスラエルの現在…………… 3

第一章 2023年10月7日

——イスラエル国防ドクトリンの破綻した日…………… 21

イスラエルはなぜ中東の火種になっていくのか…………… 22

ハマスによる奇襲攻撃とイスラエルによる報復…………… 26

予見されていた奇襲攻撃…………… 29

急速に軍国主義化するイスラエル…………… 31

イスラエルの経済発展と軽視されたパレスチナ問題…………… 33

イスラエルの政治・社会を右傾化させたネタニヤフ…………… 37

政府と軍の意思疎通の欠如…………… 40

ハマスは戦争に勝利している？…………… 43

第二章

イスラエルの存立を脅かすヒズボラ…………… 47

イスラエル最大の安全保障上の脅威、ヒズボラとイラン…………… 48

ヒズボラを生んだレバノン・シリア派社会…………… 50

ヒズボラの軍事能力の向上…………… 54

エスカレートする攻撃の応酬…………… 57

ヒズボラの軍事力を見る…………… 59

レバノン人の憎悪を生むイスラエル軍の侵攻…………… 61

第三章

戦争で自壊が進むイスラエル経済…………… 65

戦争により経済が停滞するイスラエル…………… 66

自壊するイスラエル経済と軍事覇権主義が教えるもの…………… 68

イスラエルを訪問する観光客の大幅な減少…………… 73

— 第4章 —

イスラエル政治を支配する極右政治家たち……………81

| | |
|--------------------------------|-----|
| メイル・カハネの「修正シオニズム」…………… | 82 |
| 極右が支配するイスラエル政治の絶望…………… | 86 |
| エルサレムをめぐる分裂する極右…………… | 94 |
| 経済を知らない財務大臣…………… | 97 |
| 兵士の蛮行を支持する極右勢力…………… | 100 |
| イスラエルを離れるユダヤ人たち…………… | 102 |
| 「シオニズムは偽りの偶像である」…………… | 109 |
| パリ・オレンピックでも孤立が顕著となったイスラエル…………… | 111 |
| 極右が支配するイスラエルは民主主義国家ではない…………… | 115 |
| 孤立するイスラエル…………… | 117 |

| | |
|----------------------|-----|
| ガザ攻撃を「テロリズム」と形容する | |
| ローマ教皇フランシスコ…………… | 120 |
| 弱体化する「ピース・キャンプ」…………… | 123 |

— 第5章 —

イスラエルを孤立させるネタニヤフの「狂気」……………127

| | |
|------------------------------|-----|
| ネタニヤフはなぜタカ派になったのか?…………… | 128 |
| 「鉄の壁」に基づくネタニヤフのタカ派思想…………… | 133 |
| イランとの戦争を画策し続けるネタニヤフ…………… | 138 |
| イスラエルの歴史学者・ハラリによる批判…………… | 142 |
| ネタニヤフへの逮捕状の請求…………… | 145 |
| イスラエルが踏襲するオリンピック期間中の暗殺…………… | 149 |
| 戦争を支持するイスラエル世論…………… | 152 |
| 「最大の配慮」というネタニヤフ首相の「大ウソ」…………… | 156 |
| 深まるイスラエルの孤立と「シオニズムの終焉」…………… | 159 |

—第6章— 揺れる米国とイスラエルの特殊関係 161

| | |
|---------------------------|-----|
| イスラエル・ロビーと福音派 | 162 |
| バイデン大統領の顔をつぶすネタニヤフ首相 | 165 |
| 退陣するバイデン大統領とジョンソン政権の相似性 | 168 |
| ウクライナ侵攻を非難して、ガザ攻撃を支援する米国 | 172 |
| ガザでの「ジェノサイド」に反対する米国の大学生たち | 174 |
| 大学でのガザ反戦運動を支持するバーニー・サンダース | 178 |
| 停戦を求める米国のユダヤ人 | 182 |
| トランプに1億ドルを献金する米国のカジノ王夫人 | 184 |
| 大統領選への影響 | 186 |
| 「超」親イスラエルのトランプ大統領の再登板 | 188 |

—第7章— イスラエル包囲網を築く「抵抗の枢軸」 193

| | |
|-------------------------|-----|
| ホメイニが唱えた「イスラエルの抹殺」 | 194 |
| イランの台頭を招いたイラク戦争 | 196 |
| イスラエルにはイランと全面戦争を行う能力はない | 199 |
| イエメン・フーシ派がイスラエルを攻撃する理由 | 204 |
| イエメンでフーシ派が台頭した背景 | 207 |
| フーシ派と湾岸アラブ諸国 | 210 |

—第8章— イスラエルの存立危機と日本 213

| | |
|----------------------------|-----|
| 日本政府に求められる公平・公正な立場 | 214 |
| イスラエルの占領を違法と判断する国際司法裁判所と日本 | 219 |
| ウクライナとパレスチナのダブルスタンダード | 219 |
| パレスチナ国家を承認しない日本 | 222 |
| | 215 |

第1章

2023年10月7日

—イスラエル国防ドクトリンの破綻した日



2023年10月7日、パレスチナ自治区ガザからのロケット弾攻撃を受けたイスラエル中部アシュケロン¹の街並み 写真提供：ロイター＝共同

本文図表制作…マーリンクレイン
目次・章扉制作…熊谷智子

イスラエルとパレスチナ問題の核心に迫り、
国や勢力が絡み合う中東情勢を見通す一冊。
イスラエルもまたハマス、ヒズボラ、イランと戦線を拡大しつつあり、内外

| | |
|--------------------------|-----|
| 平和記念式典にイスラエルを招待した広島市 | 225 |
| 「日本人はパレスチナに連帯してくれた」 | 230 |
| イスラエルの元人質を抱擁した日本の外相 | 234 |
| 悲惨な戦争を知る日本の若者たち | 236 |
| おわりに——イスラエルの崩壊は予見可能になった？ | 242 |

宮田律 (みやたおさむ)

1955年、山梨県生まれ。一般社団法人・現代イスラム研究センター理事長。慶應義塾大学文学部史学科東洋史専攻卒。83年、同大学大学院文学研究科史学専攻修了後、米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)大学院修士課程修了。87年、静岡県立大学に勤務し、中東アフリカ論や国際政治学を担当。2012年3月、現代イスラム研究センターを創設。専門は、イスラム地域の政治および国際関係。著書に『イラン』(光文社新書)、『物語 イランの歴史』『中東イスラム民族史』(以上、中公新書)、『武器ではなく命の水をおくりたい 中村哲医師の生き方』(平凡社)、『ガザ紛争の正体』(平凡社新書)など。

イスラエルの自滅じめつ 剣けんによって立つ者たつもの、必ず剣けんによって倒されるたおされる

2025年1月30日初版1刷発行

著者 — 宮田律

発行者 — 三宅貴久

装幀 — アラン・チャン

印刷所 — 堀内印刷

製本所 — 国宝社

発行所 — 株式会社 光文社

東京都文京区音羽1-16-6(〒112-8011)

<https://www.kobunsha.com/>

電話 — 編集部 03(5395)8289 書籍販売部 03(5395)8116

制作部 03(5395)8125

メール — sinsyo@kobunsha.com

〔R〕<日本複製権センター委託出版物>

本書の無断複写複製(コピー)は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書をコピーされる場合は、そのつど事前に、日本複製権センター(☎03-6809-1281、e-mail: jrrc_info@jrrc.or.jp)の許諾を得てください。

本書の電子化は私的使用に限り、著作権法上認められています。ただし代行業者等の第三者による電子データ化及び電子書籍化は、いかなる場合も認められておりません。

落丁本・乱丁本は制作部へご連絡くだされば、お取替えいたします。

© Osamu Miyata 2025 Printed in Japan ISBN 978-4-334-10543-3